



▲オリジナルのタコつぼを製作する参加者



▶タコつぼを投入するようす

たくさんのタコが捕れますように

タコつぼの投入式

有明町の大浦地区振興会が実施している「タコつぼオーナー制度」のスタートとして6月23日、大浦漁港で「タコつぼの投入式」が行われ、抽選で選ばれたオーナーとその家族など約60人が参加しました。一口5,000円でタコつぼを2個購入し、そのつぼで捕れたタコのすべてがオーナーのものになるというものです。漁は地元漁師が行います。

参加者は、タコつぼにイラストなどを書き入れてオリジナルのタコつぼを製作。その後、船で投入場所まで移動し、タコつぼを投入するようすを見守りました。参加者は、「たくさんのタコが捕れるとうれしい。大きなタコが捕れるのを楽しみにしています」と話していました。

早期完成を願って

『本渡道路「(仮称) 第二天草瀬戸大橋」事業着手記念式』

6月23日、『本渡道路「(仮称) 第二天草瀬戸大橋」事業着手記念式』が本渡南地区コミュニティセンターで行われ、関係者など約200人が参加しました。式典では、蒲島郁夫・熊本県知事が「天草の発展、熊本の発展のため、早期完成を祈っている」、安田市長が「1日も早い早期完成を目ざし、全力で取り組んでいきたい」とあいさつ。また、瀬戸小学校3年の江崎こころさんと本渡南小学校6年の向浩太郎くんが、第二天草瀬戸大橋にかかる思いを作文にし、それぞれ発表しました。その後、本渡港南側岸壁で事業着手の第一歩となる測量基準点の設置セレモニーが行われました。



▲測量基準点を設置する蒲島知事と向くん、江崎さん

短冊に願いを込めて

七夕飾り

6月30日、天草町の大江地区にある老人福祉施設で七夕の飾りつけが行われました。七夕飾りの材料は、大江地域づくり振興会が提供したもの。入所者は、「世界が平和でありますように」「家族が健康でありますように」など思いおもいの願いごとが書かれた短冊と、色とりどりの折り紙で作られた飾りを笹の葉にとりつけていました。このほか、同振興会では七夕にちなんで製作した7本の七夕飾りを、地区内を通る国道389号沿いに設置。道行く人たちの目を楽しませていました。



▲老人福祉施設で笹の葉に飾りつけをする入所者たち



▲オクラを収穫する稲田さん

大きなオクラが実りました

倉岳町でオクラの収穫が最盛期

倉岳町特産のオクラの収穫が、最盛期を迎えています。町内75戸の農家が4haで栽培。同町を管内とするJAあまくさは、県内でもっとも多い出荷量を誇り、その内の約6割が倉岳産です。7月17日には、棚底地区でオクラ10aを栽培する同農協倉岳支所・オクラ部会長の稲田秀敏さんが、早朝から大きく実ったオクラを収穫していました。11月上旬まで、主に関東・関西方面へ出荷されています。

伝統料理を若い世代に伝える

伝統料理教室

6月30日、新和町の宮南地区コミュニティセンターで「伝統料理教室」が開かれ、地元の子どもや保護者など20人が参加しました。宮南地区振興会が、同地区の伝統料理の作り方を若い世代に伝えるために初めて開催したもの。

参加者は、地元の老人会の皆さんの指導を受けながら、「ぶたあえ」「タコとキュウリの酢の物」「アオサ汁」の3品を調理。タコや野菜を切ったり、味付けをいっしょにしたりするなど真剣な表情で取り組んでいました。その後、できあがった料理を食べ、子どもたちは「おいしかった。またいっしょに作りたい」と笑顔で話していました。



▲老人会の皆さんの指導を受けながら野菜を切る子どもたち

熱い戦いに大きな声援!

かわうらエンジョイミニバレーボール大会

6月16日、河浦まちづくり協議会主催の「第19回かわうらエンジョイミニバレーボール大会」が河浦中央体育館で行われ、5種目に47チーム・約330人が参加しました。スポーツを楽しみ、地域の連携と親ぼくを深めてもらおうと毎年開催しているもの。参加者は息のあったプレーで熱戦を展開。また、「父の日」でもあったこの日は、プレーをしているお父さんたちに子どもたちが大きな声援を送っていました。



▲熱戦を繰り広げる参加者